

特集

すぐ理解できる「イメージ図」付き

くっつくon

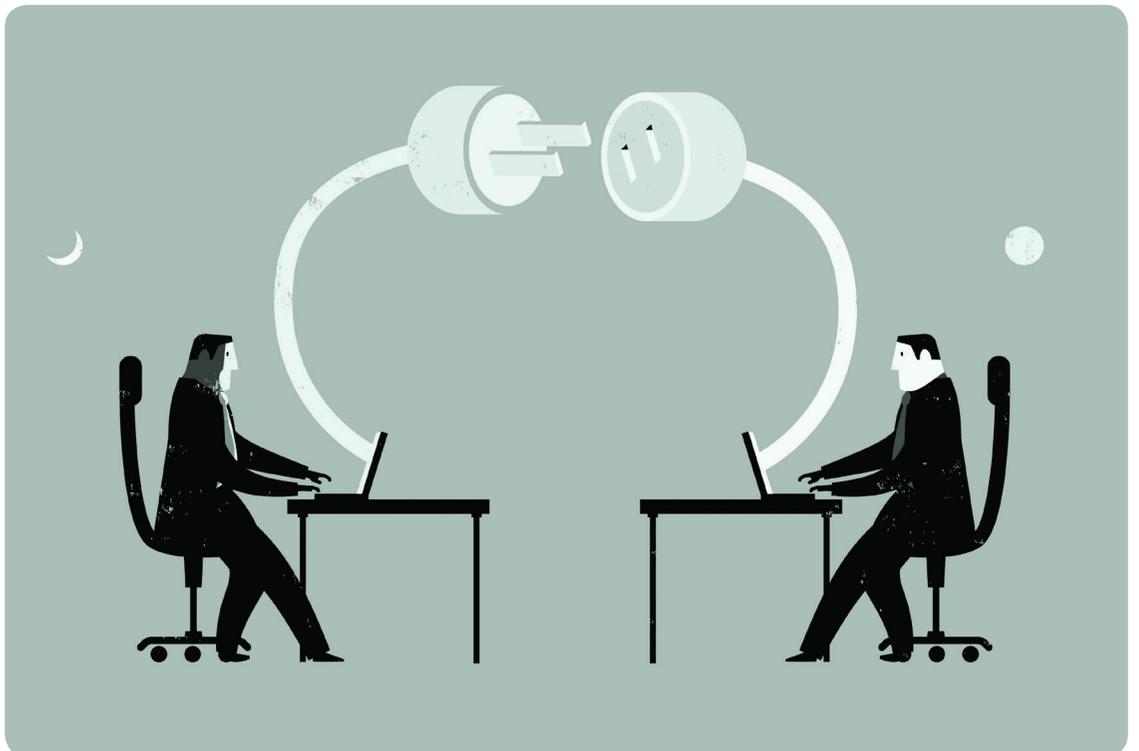
副詞

離れるoff

で覚える「句動詞」

「句動詞」とは、〈動詞+副詞〉あるいは〈動詞+前置詞〉の2語、時には〈動詞+副詞+前置詞〉の3語から成る動詞フレーズで、全体として「一つの動詞」のように機能します。自然な英語を話したり書いたりするには、できるだけ多くの句動詞を活用できるようになることが重要です。例えば、mature (成長する) のような「少し堅い動詞1語」を、grow up という「簡単な動詞+α」で表現できるので、ネイティブスピーカーは「普段遣いの英語」として実によく句動詞を用いています。句動詞を活用できるようになるには、「句動詞」の構成要素のうちサブのように見える「副詞／前置詞」を逆に鍵としてとらえ、「副詞／前置詞」ごとにコアイメージをまとめてつかんでいくのが効率的です。さらに、そのようにして身につけていくことで、意味を知らない句動詞に遭遇したときにも応用が利き、類推が働いてイメージをつかむことができるのです。

執筆：EE編集部



about

基本イメージ

なんとなく～の周りにある



around

基本イメージ

～を取り囲んでいる



about/aroundの基本的な意味とその広がり

aboutの最も基本的な意味・用法は、I sometimes **think about** my high school days. (時々、高校時代のことを考える) のように、「～について」です。ofを使った I've **heard of** you. が「人物自体」にスポットを当てているのに対し、aboutは対象物を中心に「周辺も含めて」捉えているイメージ。I've **heard about** you. は、「人物と、その人に関するさまざまなこと」を対象にしており、「君についてはいろいろな話やうわさを聞いているよ」というニュアンスになります。この「～について」という意味はaroundにはありません。

一方、aroundはThe moon **goes around** the earth. (月は地球の周りを回っている) のように、「軸を中心に」というのが基本イメージです。

aboutは「なんとなく周りを囲む」、aroundは「きっちりと取り囲む」という違いはあるものの、どちらも「何かを囲む」点では似たような基本イメージを持っているため、aboutとaroundはほぼ同じ意味で使われることがよくあります。

aboutは「対象物を含め、なんとなく周囲にある」というイメージから、aroundも、中心である軸からの「さまざまな方向への動き」から、「あちこちで」「ぶらぶらと」「周りに」などの意味を表します。また、対象物の周りにあるイメージから、両者とも「目的が定まっていない」というニュアンスも表します。

なお、アメリカ英語では、aboutとaroundの両方が可能な場合、aroundのほうをよく用います。

👉あちこちで

I heard someone **moving about [around]** in the living room. (誰かが居間で動き回る物音が聞こえた)

👉目的が定まっていない

He **wandered about [around]** the mall just to kill time. (彼は単に暇つぶしのために、モールをぶらぶら歩いた)

押さえておきたいaboutの重要な用法

「対象物のほぼそばにいる」ということから、何かが「始まる」、何かに「着手する」というニュアンスを表すパターンもあります。例 The editor finally **set about** reading the galley proofs of the novel. (その編集者は、ようやくその小説の校正刷りを読み始めた) / The Industrial

Revolution **brought about** many drastic changes to our society. (産業革命は、われわれの社会に多数の急激な変化をもたらした)

また、aboutには「反対方向に向きを変える」という意味も(ちなみに、about-faceは「回れ右」という軍隊的な動作や、比喩的に「百八十度の方針転換」を表す)。例 The ship **came about** and headed back to the port. (船は向きを変え、港に戻った)

押さえておきたいaroundの重要な用法

「軸を中心に回転する」ということから、「(回転して)また元の状態に戻る」という意味にも。例 He **came around** from the anesthetic. (彼は麻酔から目を覚ました)

また、「ある場所を取り囲む」ということから「遠回りして」「～まで回って」「わざわざ」という意味や、さらに「遠まわしに」「かわして」「避けて」という意味でも使います。例 Until we can solve the problem, we'll just have to **work around** it. (問題点を解決できるまでは、それは避けて通るに限る)

away

基本イメージ

ある場所から遠ざかって



awayの基本的な意味とその広がり

He **moved away** from his hometown in 2006. (彼は2006年に生まれ故郷から引っ越した) は「遠ざかって、離れたところへ」ですが、The butcher **trimmed the fat away** from the meat. (肉屋は、肉から余分な脂肪を切り落とした) のように「外れて」「取り除いて」という意味も表すことができます。

「離れる」という意味から拡張して、「避けて」「消えて」「追い払って、排除して」という意味も表します。例 **Keep away** from me! (私に近づかないで!) / She felt her anger **fading away**. (彼女は自分の怒りが消えていくのを感じた) / He **chased the cat away** from the door. (彼はその猫をドアから追い払った)

また、put away「～をしまう」やlock away「～をしまい込む」のように、「(ここから離れた) 所定の場所に」「人目につかないところへ」というニュアンスも表します。

押さえておきたいawayの重要な用法

awayには、時間的にも「ある時点からどんどん離れていく」ということから、「休むことなしに」「絶え間なく」という用法もあります。例 She has been **talking away** on the phone for two hours. (彼女は2時間も電話でしゃべり続けている)

down

基本イメージ

(高いところから)低いところへ



downの基本的な意味とその広がり

もちろん、「下への動き」を表すのが基本で、upと対になって用いられる句動詞も多くあります。例 pull up (引き上げる) ←→ pull down (引き下ろす)。動詞によって「飲み下して、飲み込んで」といった意味にもなります。「低いところへ」という基本イメージからの拡張で、「地面や床まで」という意味も表します。例 burn down (床まで燃え尽きる、焼け落ちる)

動詞によっては「減少して」という意味や、あるいは「(上から)下に押さえつける」というイメージから「固定して」「打ち負かして」「抑えつけて」「引き下がって」といった意味にもなります。「考えを固定する」ということから、「(紙などに)書き留めて」という意味もあります。

「(上の世代から)下の世代へ」例 hand down (後世に伝える)、「見下す」例 look down on (～を軽蔑する)なども、基本イメージからの延長で捉えることが可能ですね。

▶減少して

Can you **turn down** the stereo? I'm on the phone.
(ステレオの音を下げられる? 今、電話中だから)

▶固定して

The lid of the box was **screwed down** tightly.
(箱のふたは、きっちりとネジ止めされていた)

▶打ち負かして

Don't let her **argue you down**.
(彼女にやり込められる [言い負かされる] なよ)

▶引き下がって

The police officers were ordered to **stand down**.
(警官たちは、警戒態勢を解くよう命令を受けた)

押さえておきたいdownの重要な用法

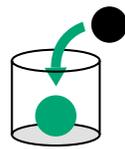
「(上から)下までずっと」「(手前から)先までずっと」ということから「全部きれいに」の意味でも使われます。例 I mop the floor **down** every morning. (毎朝、床をモップできれいに掃除している)

また、「最後までずっと」から「本気で」「突き止めて」などの意味もあります。例 Let's **get down** to business. (そろそろ本題に入りましょう) / The committee is trying to **pin down** the cause of the accident. (委員会は事故の原因の特定に努めている)

in

基本イメージ

内側にある、(外から)中へ



inの基本的な意味とその広がり

「内側にある状態」あるいは「外から中への動き」が基本イメージで、outと反対の意味。

「建物の中に入る」→「(特定の場所に)到着して」「手続きをして入って」、さらに「吸収して」「加えて」という意味もあります。「集めて」「絵や文を入れて」「関与して」「閉じ込めて」「家の中にとどまって」などの意味も、「中へ」という基本イメージからの拡張で容易に理解できますね。

「中に入る」→「ある状態になる」ということから、何かを「始めて」「導入して」という意味でも使われます。

▶中へ、奥の方へ

Would you mind **squeezing in** a bit?
(少し奥に詰めてもらえませんか)

▶手続きをして入って

She **checked in** at the front desk.
(彼女はフロントでチェックインした)

▶吸収して

When doing this exercise, you should **breathe in** through the nose.
(この運動をするときは、鼻から息を吸うといいですよ)

▶絵や文を入れて

Fill in this form and submit it at window 5.
(この書式に記入して、5番窓口に出してください)

* fill outも「記入する」という意味ですが、fill inが「書式の空白を埋める」というニュアンスなのに対し、fill outは「全部記入してしまう」「書式を完成させる」というニュアンスになります(このoutは「完全に」「最後まで」の意味)。

▶導入して、始まって

We need to harvest the crops before winter **sets in**. (冬になる前に収穫を終わらせる必要があります)

押さえておきたいinの重要な用法

「内側に」というニュアンスのinが、「破壊する」という意味の動詞と組み合わせると、「(外側から中に)押し入って」という意味になります。例 It looked like someone had tried to **break in** through the bathroom window. (誰かが風呂場の窓から押し入ろうとしたようだった)

また、「中にとどまる」というマイナスイメージから、「(何もせずに)諦めて」「降参して」という意味になることもあります。例 They **gave in** and surrendered the fortress. (彼らは降参し、要塞を明け渡した)